

臨床心理学科の三つの方針 (2017年4月1日改定・2018年度入学生より適用)

I. 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

臨床心理学科 (以下、「本学科」という) では、本学科の課程を修め、124単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、建学の理念である共生 (ともいき) の態度を身につけるとともに、臨床心理学の専門知識と技能を習得し、下記の能力と資質を備えた人材を育成することを教育目標とし、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

(1) 自律性 (自律的で意欲的な態度)

社会生活を営むうえで自らの課題を自覚し目標を設定することができ、その実現のために自ら考え、自らを律しつつ意欲的に行動することができる能力。

(2) 専門的知力と応用力

学士に相応しい教養知をもとに、臨床心理学の諸領域についての基本的知識を身につけ、個別的なところと普遍的なところの多層性を理解するとともに、客観的データの意味を理解・説明・活用する能力。

(3) 社会実践力 (社会参加力)

心理職としての臨床場面のような専門領域に止まらず、あらゆる職場・社会組織・地域社会など、社会の様々な場面において、臨床心理学の体系的知識と技能を活用して社会の諸課題を理解・分析し、社会のニーズに応えるべく取り組む能力。

(4) コミュニケーション力 (人間関係構築力)

他者の立場に立って物事を考える共感的態度をもち、対話と意見交換を通して、様々な立場の相違を克服し、協働して問題解決にあたる能力。

II. 教育課程編成の方針 (カリキュラム・ポリシー)

本学科では、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に掲げた目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせて開講します。カリキュラム体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラム構造を明示します。教育内容・方法・評価については次のように方針を定めます。

(1) 教育内容

① 全学共通科目を通して幅広い教養と学習スキルを習得し、大学教育への適応を図るとともに、臨床心理学に対する興味と理解を深め、体系的に学ぶための基礎能力と態度を獲得し、社会に進出してから「ともいき人材」として活躍できる基礎となる教養教育を行います。

② 学びにおける主体性と自律性を重視し、1年次から4年次までの全学期に演習を必修科目として配当し、その担当教員が学習面と生活面で助言を行うアドバイザーとして指導にあたります。

③ 専門科目は講義科目、演習科目、実践演習科目の形式で1年次から4年次まで重層的に配当し、こころの深層・力動・多様性と普遍性及び、行動のメカニズムについて重点的に学修し、専門的実践力を高め臨床心理学の根幹となる知的・体験的教育を行います。

④ 心理査定・実験・統計・研究法関連科目を通して、客観的かつ実証的検証方法と分析方法を学修し、心理専門職としての基礎的素養と研究能力を身につけるとともに、心理職以外の社会活動でも活用できる実践的能力を身につけることを目標にした教育を行います。

⑤ 1年次からキャリア関連科目を配当し、臨床心理専門職以外の領域への社会進出に備え現場実践力を高める教育を行うとともに、資格関連科目を配当し、臨床心理学隣接領域の専門職資格取得を目標に学修します。

(2)教育方法

① 学びにおける主体性と自律性を高め、自発的な学修を督励するために、全学共通科目のみならず専門科目においてもアクティブラーニングを取り入れた教育を実施します。

② 専門科目においても、学びの達成度のフィードバックを積極的に行い、学生自身が自らの学びの主体となるよう努力します。

③ 多岐にわたる臨床心理学専門科目群の中から、2年次からは自らの適正と興味を発見し、自らの学修モデルを定め、アドバイザー教員との面談を通して適宜修正しながら、卒業まで計画的に学修できるように努力します。

(3)教育評価

① 4年間の総合的学修成果の評価は、卒業論文の作成を義務づけ、複数の教員によって評価することによって行います。

② 科目別の評価は、当該科目のシラバスに定める到達目標の達成度と、その他適切な方法で行います。学生個人の総合評価は、これらの評価に卒業論文の評価を含め総合的に行います。

③ 学修成果の評価に際しては、ラーニング・ポートフォリオやルーブリックなど最新の効果的な方法を積極的に取り入れ、客観的な評価に努めるとともに、学生が自らの学習成果を確認しながら学習を計画・管理できるように工夫しながら行います

Ⅲ. 入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

(1)求められる人材

本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で掲げる「ともいき人材」の育成と、その実現のために教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）で定めた教育を受けるために、以下の知識・能力・資質及び、意欲を備えた人を求めます。

このような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。

- ① 人、こころ、社会に健全な関心をもち、他者と関わろうとする意欲をもっている。
- ② 高等学校、または同等な教育課程を修めている。
- ③ 臨床心理学の知識・技能を学修するための基盤となる日本語運用力（読解力と表現力）をもち、他者の話を聞き自身の考えを表現できるコミュニケーション能力を身につけている。
- ④ 身近な課題や社会の諸問題について、自らの知識や情報をもとに思考・分析し、説明する能力を身につけている。

(2)入学者選抜方法

上記「求められる人材」で挙げた能力や資質、意欲の其々に対する評価を組み合わせた入試課題を実施する。詳細については入試要項に別途定める。